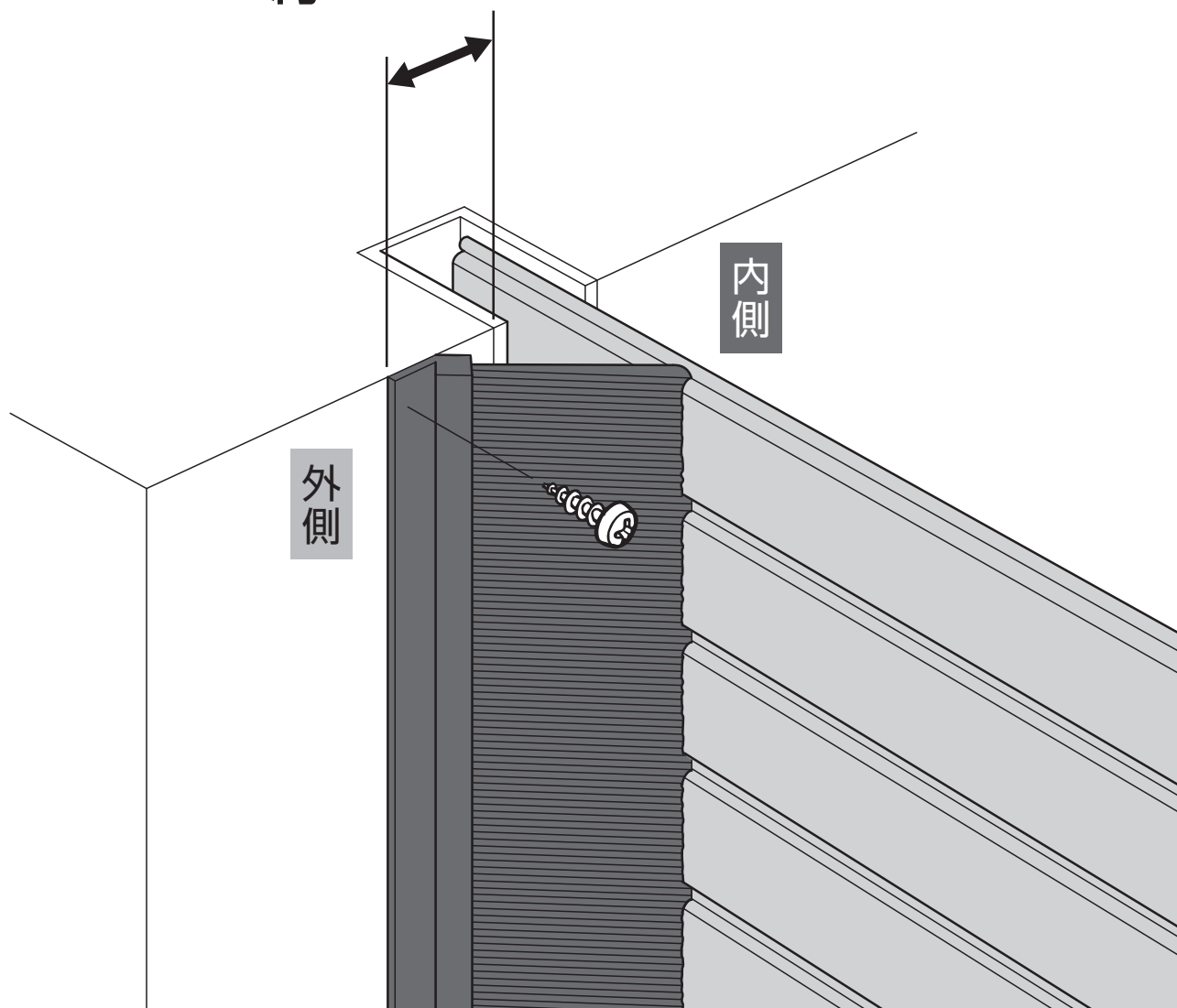


施工重要寸法

ガイドレールから
約65~70mm



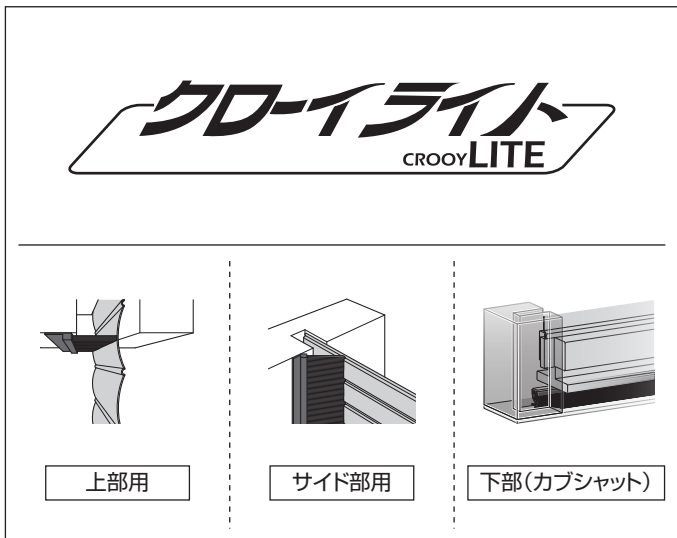
その他4項目の詳細は中の冊子を参照してください

施工説明書

シャッター隙間対策用ブラシ クローイライト

この度は、シャッター隙間対策ブラシをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
 でございます。

- 説明書をよくお読みのうえ、正しく安全に取り付けてください。
特に「安全上のご注意」は、取り付け前に必ずお読みください。
- シャッターメーカー様および弊社認定の施工業者様以外による施工、
 または説明書に記載されていない方法で施工されたことにより事故や
 損害が生じたときには、当社では責任を負えません。また、その施工が
 原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。
- 負荷検知装置が取り付けられている場合は、負荷検知の感度調整を行ってください。
- シャッター本体に歪み、曲がり、錆、開閉時の不具合がある場合はシャッターを
 修正してからブラシを必ず取り付けてください。ブラシを取り付けた後、
 シャッターが動かなくなる可能性があります。
- 梱包材や残材は、法律に従って適切に処理してください。
- 別紙、「取扱説明書・製品保証書」は、お施主様へお渡しください。





安全上のご注意 必ずお守りください



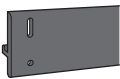
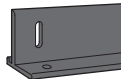
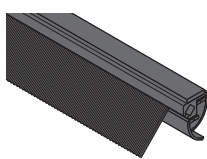
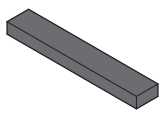
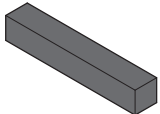
■誤った施工をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。 ■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。

 注意	「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。	 してはいけない内容です。	 実行しなければならない内容です。
--	----------------------------------	---	---

! 注意

 禁止	<ul style="list-style-type: none"> ●この商品はシャッター専用です。他の用途には使用しない ●座板幅が80mm以上の場合は、施工しない ●夏場で直射日光の当たる場所やアスファルトの上など、 高温になる場所に置かない 変形の原因となります。 	 必ず守る	<ul style="list-style-type: none"> ●座板からねじが貫通した場合、 けがをしないように適切な処置を施す
---	---	--	--

部品・部材

部品・部材名	上部	サイド部	サイド部(露出型レール・中柱取付専用)	
	上部用ブラシ	サイド部用ブラシ	アングルプレート	アングルベース
姿図	 <p>毛丈:50mm 長さ:1.5m</p>	 <p>毛丈:80mm 長さ:1.5m</p>	 <p>長さ :1m 付属品:ボルト・袋ナット・ワッシャー</p>	 <p>長さ :1m 付属品:ボルト・袋ナット・ワッシャー</p>
部品・部材名	下部(カブシャット)			
	下部用部材	すき間埋め用スポンジ		
姿図	 <p>長さ:1m 入数:1本</p>	手動シャッター用  <p>サイズ:60×10×5 (両面テープ付き) 入数 :2個</p>	電動シャッター用  <p>サイズ:60×10×10 (両面テープ付き) 入数 :2個</p>	

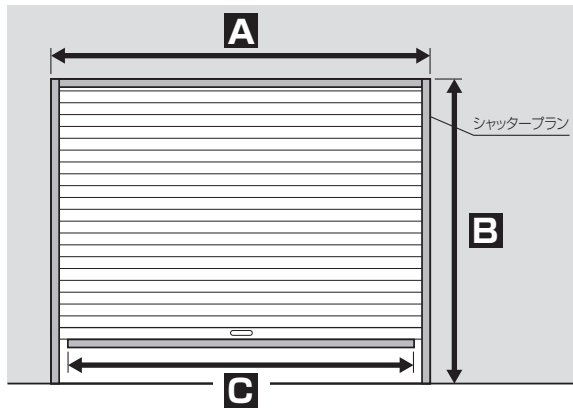
※取付用ねじは付属していません。

■推奨ねじ 上部・サイド部:ドリルねじ(ステンレス)ナベM5×13、下部(カブシャット):小頭テクス(ねじ)M4L16またはM4L19

取り付け手順 **上部** **サイド部**

1 部材のカット

① 部材寸法を確認する



A 上部

シャッター開口幅に合わせてカットする。

B サイド部

シャッター開口部の高さに合わせてカットする。

C 下部(カブシャット)

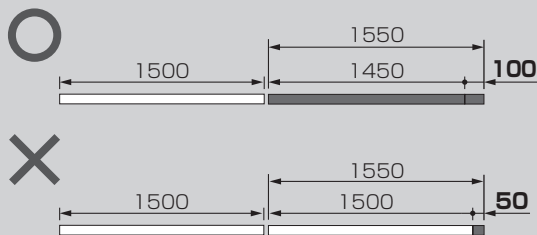
裏面 **2** 下部用部材の取り付け の項目をご確認下さい。

② 必要な長さに部材をカットする

重要! 部材の最小長さについて

部材のうち一本が100mm以上(要ビス固定)になるよう、下記図1を参考にカットして頂くと仕上がりが綺麗になります。カットしてつなぎ合わせるブラシは、図2のように植毛孔にかからないようにカットしてください。

(例) L寸法が3050mmの場合

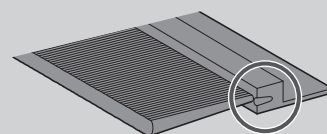
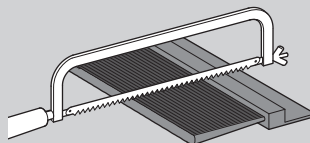


■ ブラシのカット

ブラシをカットする場合は、下図の要領でカットをしてください。

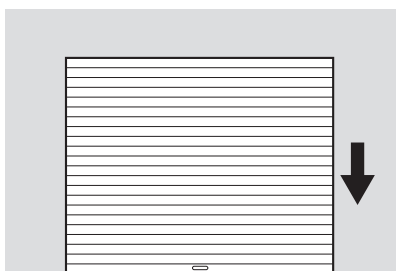
1. ブラシおよびフレームを金ノコで必要な長さに切断する

2. 切断部分に残ったブラシを取り除く ※切断面はやすりなどでバリ取り処理を行ってください。



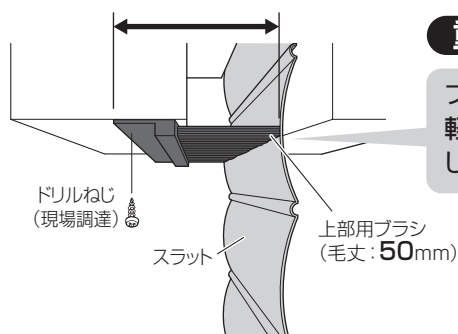
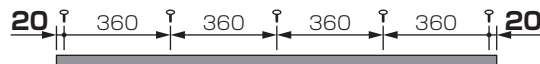
2 上部用部材の取り付け

① シャッターを閉める



② 上部用ブラシをねじで固定する

■ねじ固定位置
(例) 1500mm

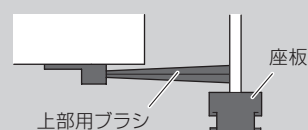


重要!

ブラシの先端がスラットに軽く当たる位置に固定してください。(約75mm)

重要!

障害物検知装置が付いている場合
上部用ブラシの下で座板が止まるようにリミッター調整を行ってください。

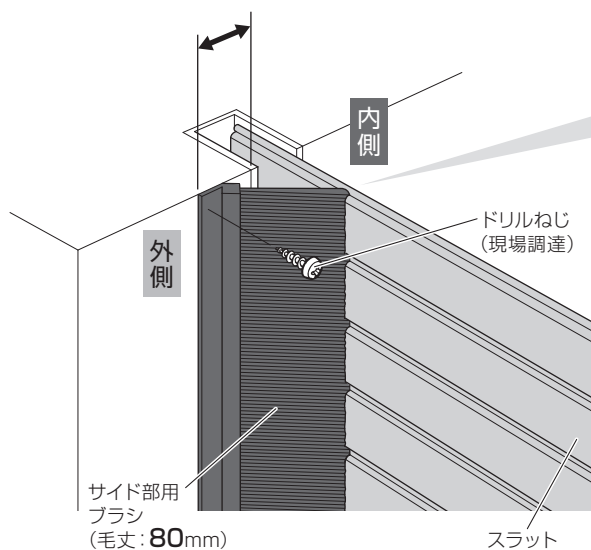


3 サイド部用部材の取り付け ※取り付けはシャッターを閉めた状態で行ってください。

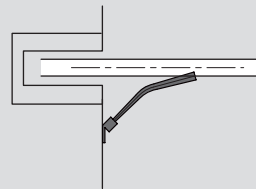
サイド部用ブラシをねじで固定する

電動・軽量手動シャッターの場合

重要! ガイドレールから約65~70mm



施工注意点

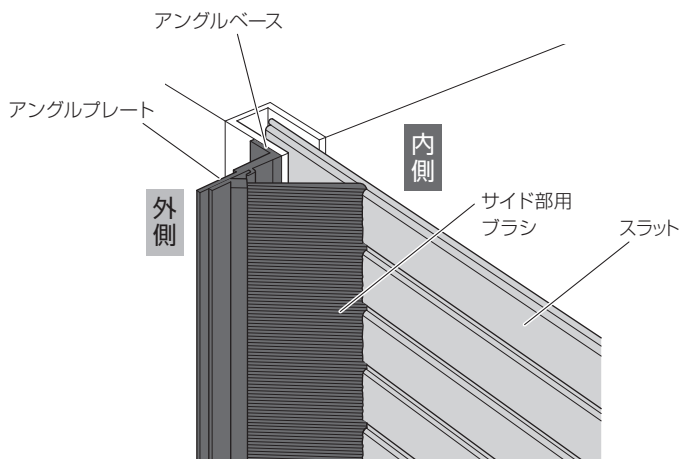


スラットの形状や施工距離が近い場合、ブラシの抜けや切れのおそれがあります。ブラシの先端がスラットに軽く当たる位置に固定してください。

露出型レール、中柱の取り付けは、専用アングルが必要です。

重要! 取り付け位置について (中柱の場合)

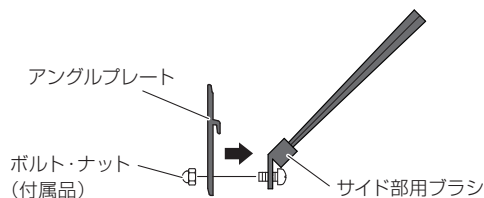
中柱を脱着して使用する場合は、上部より100mm程下がった位置にアングルを取り付けてください。



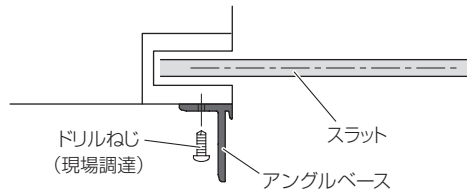
① アングルプレート・アングルベースをカットする

シャッター開口部の高さに合わせてカットする。

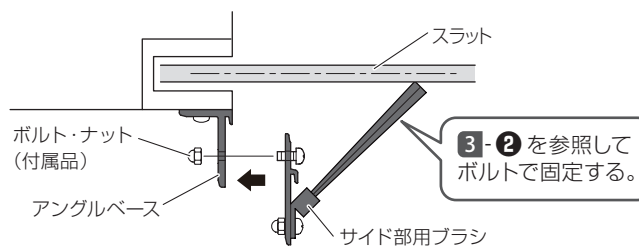
② サイド部用ブラシにアングルプレートを取り付ける



③ アングルベースをねじで固定する



④ アングルベースにサイド部用ブラシを取り付ける



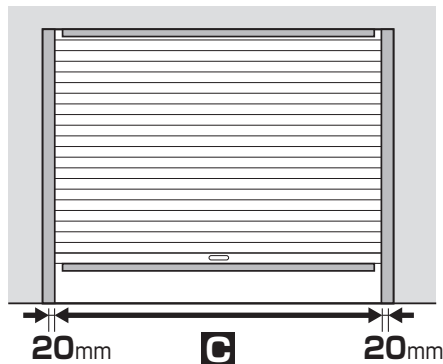
重要!

ガイドレールから
約65~70mm

アングルへの取り付けは、けが防止のため、ボルトまたはリベットなどで取り付けてください。

1 部材のカット (下部(カブシャット))

- 1 部材寸法を確認する
- 2 必要な長さに部材をカットする



C 下部(カブシャット)

シャッター開口幅 + 40mmにカットする。

例. シャッター開口幅2700mmの場合

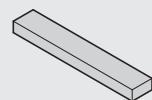


※両面テープでの接着になりますので、1本あたりの長さは200mm以上が推奨です。

すき間埋めスポンジについて

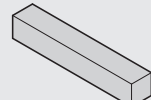
障害物検知装置付きの座板の場合は、すき間ができる場合があります。その場合は、すき間埋めスポンジをアルミ部分に貼ってすきま間を埋めてください。

手動シャッター用



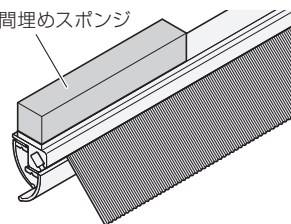
サイズ: 60×10×5
両面テープ付き

電動シャッター用

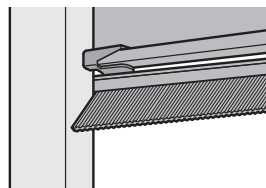


サイズ: 60×10×10
両面テープ付き

すき間埋めスポンジ



軽量シャッターの場合、水切りカバーがついている場合がありますので、スポンジ材を付けてください。



2 下部用部材の取り付け

- 1 下部(座板)底面を清掃する

(強く接着するため)

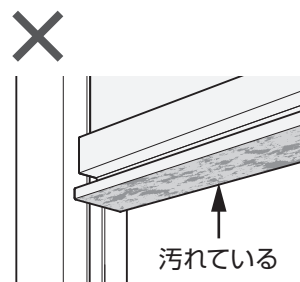
両面テープによる施工のため座板の底面をパーツクリーナーやシンナーなどの油分を取り除く溶剤で清掃してください。

⚠ 注意

●下部(座板)底面を必ず清掃する

接着不良により下部用部材が落下してけがをするおそれがあります。

必ず守る

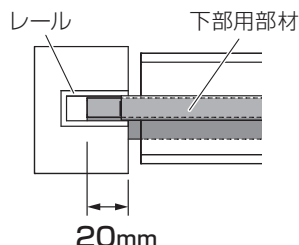


- 2 下部用部材を取り付ける

両面テープの剥離紙を剥がし、座板の中心に合わせて取り付けてください。

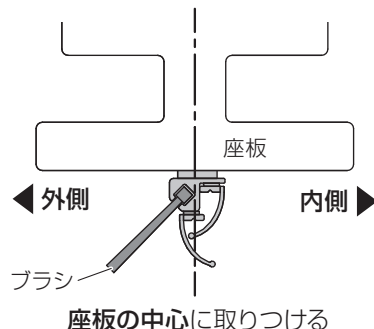
重要!

シャッターのレールに約20mm差し込む



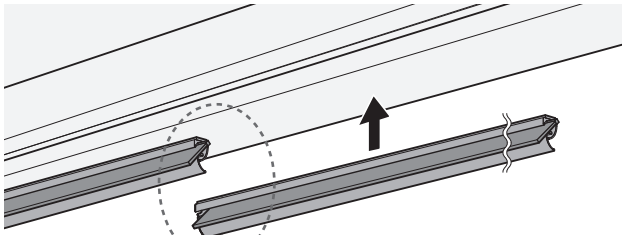
重要!

ブラシの向きと取り付け位置に注意する

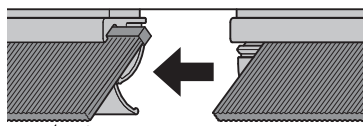


③ 2本目以降を取り付ける

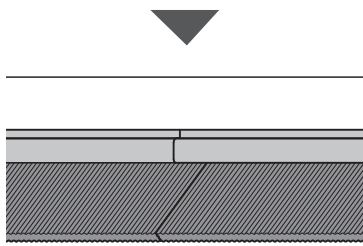
ブラシにすき間ができないように、ホルダーからブラシを5mm以上出して、次のホルダーに差し込みながら取り付けてください。



重要!



5mm以上出す



すき間ができないようにする

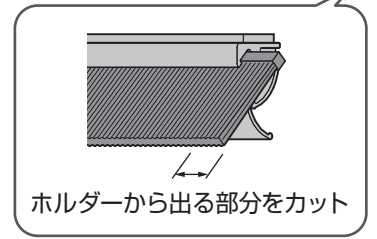
④ 最後の1本のブラシをカットする

重要!

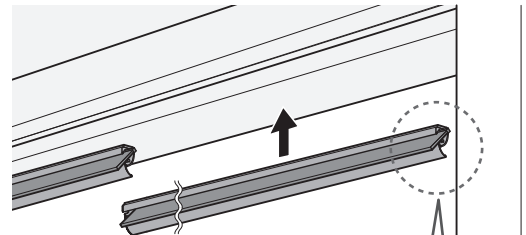
ホルダーから出ているブラシをカットする

最後の1本は、ホルダーとブラシの終端が揃うようにブラシをカットしてください。

例. シャッター開口幅2700mmの場合

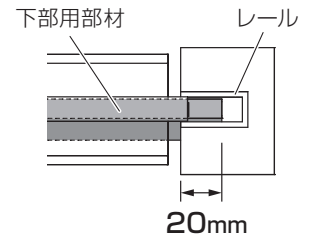


⑤ 最後の1本を取り付ける



重要!

シャッターのレールに約20mm差し込む



※下部用部材を取り付けると、シャッターを閉めた状態では座板が約15mm上がります。鍵受けの位置を鍵のかかる位置に変更してください。(シャッターの鍵がかからなくなるおそれがあります。)
※電動シャッターに施工する場合、リミット調整が必要になる場合がございます。

取り付け後の確認

- シャッターの開閉が問題なく開閉できることを確認してください。
- シャッターの鍵が閉まることを確認してください。

- 継ぎ目部分に毛癖がある場合、数日で毛がなじんで隙間が埋まります

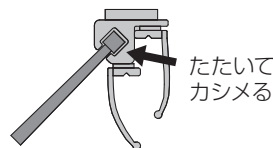
こんなときは

Q ホルダーの取り付け位置を間違えた

- A ホルダーを取り外して、再度取り付けてください。ただし、一度外すと両面テープの接着力が低下していますので、市販の強力な両面テープをお求めいただき、ホルダーに取り付けてください。

Q ホルダーからブラシが動く

- A ホルダー両端をペンチかかなずちで矢印の方向からホルダーをたたいてカシメてください。



Q 両面テープで接着できない

- A アルミ部分からねじで固定ください。その際、小頭テクス(ねじ)を使用するとゴム部分がねじの頭でふくれることが少なくなります。ただし、障害物検知装置付きの座板にはねじを打ち込まないでください。(ねじは両端から20mm、ピッチ320mmで固定してください。)

